東京　明治十六年六月十一日　月曜日　第三百八十四號　日曜日休刊　定價金三錢

諸達伺公報

府　縣

○内務省乙第二十九號

戸長印章ノ義ハ八年第百十號達判任官同樣タルベキ旨相達置候處布告還コヨリ實印ヲ押捺スル分モ自今官印ヲ用ユベシ此旨相達候事

明治十六年六月八日　内務卿山田顯義

○臨時報告第三十三號

「フィリッピン」群島虎列刺流行ノ原ハ去ル六日報告セシコト内國ニ於テモ四月中旬以降東京大坂ノ二府及ヒ栃木宮城新潟青森ノ諸縣ニ各一二ノ虎列刺患者ヲ散發セリ此旨報告ス

明治十六年六月九日　衛生局

叙任賞勳

○二月廿八日分

任陸軍歩兵大尉　陸軍歩兵中尉從七位勳六等　佐藤義方
任陸軍歩兵中尉　陸軍歩兵少尉正八位勳六等　矢島爲三郎
仝　堀江不可止　窪島珍儀　氣野景衛　柴山倚剛　小野重勤　中川重之　川崎宣三　勝見有庸　古市龍八郎

時事新報

安南ノ戰報

安南ハ支那ノ南境ノ隣國ニシテ面積凡十万英方里コレヲ日本ニ比較スルニ帝國ノ所領ヨリ北海道ヲ除キ其殘餘即チ本州九州四國三島ヲ合ヒタルモノト略相似タリ人口ハ未タ精細ナル調査ヲ得ズト雖ドモ蓋シ一千五百万内外ノモノナルベシト云ヘリ佛國ハ此大國ヲ率ケテ自國ノ所轄ニ歸スベシト云ヒ支那ハ安南爲中國所屬之邦獨リニ他人ノ干渉ヲ許サズト云ヒ双方固ク執テ相容レズ議論益上昂シテ漸ク其頂點ニ達シ不日勝ニ曲直ノ判斷ヲ兵力ニ訴ヘントスルノ徴アリ佛國政府ハ尚ホ談判スル所アラシメントテ在日本東京ノ「トリクウ」公使ヲ北京ニ派遣シタルニ支那政府ハ和戰ノ全權ヲ李鴻章ニ委寄シテ直チニ南方ニ出發セシメ李氏ハ既ニ其途ニ上リタリ世人ハ此等ノ挙動ヲ見テナラズシテ佛清兩國ノ間ニ干戈ノ事アルベシト豫期スル折柄忽チ香港ヨリ新聞ノ到達スルアリ五月十一日以來安南東京ノ海内ニ於テ佛兵ト安南ノ黒旗兵ト激戰シテ大敗ヲ取リ首領「リヴヰール」氏以下戰死スル者數十名傷者ヲ合セテ百名内外ナリト云ヘリ今ヤ清佛ノ間密雲日ニ慘澹前山既ニ雨踊ヲ見ルノ想アル折柄安南土兵ノタメニ佛軍敗走ノ報知アリシハ眞ニ安南事件ノタメニ百尺竿頭更ニ一歩ヲ進メタルモノト云ハザルヲ得ズ安南ノ戰報左ノ如シ

五月十一日安南の黒旗兵八千乃至一万許り東京海内府（トンキンハイ）（佛人の居留地）を攻圍し一軍ハバクニンに廻り一軍は七ヶ道より東京に進入し三道並び進む然るに佛軍總督リヴヰール氏いそゝの兵卒を率ひて海内府に據守し敵兵を防戰すと雖ども衆寡敵せざるのみならず土民の勇氣次第に盛んにして敵兵益々多きを加ふリヴヰール氏い乃ち佛艇カラビン號をハイホンに送り佛國支那艦隊より急き援兵を求め且つ當府は陸兵を送くるべき旨を報知し益々防禦の力を盡しより十三日ゐは佐官カアリユウ氏ムーリンの舊戰して非常の勇氣を顯ハせしが遂に重傷ためし果るく死去したるゐ翌日佛軍は其屍を殯葬して軍祭を執行したり十五日佛軍バクニンに道を出でゝ敵兵を衝擊し敵砲六門を釘を打ち又佛艦レオパアト、ブルヴヰル、ファンフエールの三艘い海上よりバクニンの敵營を砲擊せしも遂に其功を見ず十九日佛軍い再び黒旗兵を衝擊せんため兵士五白餘人大砲五門總督リヴヰール氏之を指揮し進んで敵兵を衝かんとし午前四時際未明より海内を發し進軍二時間ゐ及び玄時忽ち黒旗兵の伏に陥りたり佛軍は敵に伏兵ゐ度を失ひ狼狽し遂に支之難くして退軍し死傷する者頗る多し全軍五百餘人中即死二十餘人負傷四五十人其外將校士官に戰死せし者い總督リヴヰールを始め提督ド、ヴヰーラル中佐ヲアッキン中尉ド、プレシー分隊長ド、ムーリン等の諸氏ゐて死傷都合一百人殆ど全軍の五分一を占むれ亦以て當日の激戰あゞしを知るべし提督ヴヰーラル氏は戰場ゐて負傷し海内に營ゐ歸ゐ六時間ゐ後遂ゐ呼吸を絶ちたり又總督リヴヰール氏が戰死せし次第ハ本軍敗走に際獨り殿戰し我軍の大砲一門陣後ゐ殘して見へしかバ夫れ遺すゐと士官數名を指揮して蹈止り必死となりてこれを爭ひ大砲難ゐく取戻し得ゐ共其間ひべし總督い重傷の爲ゐ屍を戰場ゐ暴らしたり是役や固より公法の戰爭にはゐらざれ共佛軍は初度の斯爭に敗北し剩へその總督を失ひたれバ非常ゐ大敗と謂すべきゐるり又佛卒の中にて黒旗兵ゐ捕とゐりし者數名ゐりといへり斯くて佛軍い殘兵を收めて再び海内府ゐ入り守備を嚴ゐして攻撃ゐ備へ警固頗ゐ嚴重ゐり府知事は又人民に敵愾心を奮ゐて狼ゐに立騒ゐ警ゐ樣告示ゐり然れとも海内府の騒動い一方ゐら走人民離散して悲慘の觀を呈し居留地ゐは歐洲人支那人安南人の家屋ゐれ共これゐりて軍艦の發砲ゐ不便ゐりとして或はこれを焼き拂ひ或い火藥を以て之を破壊したりゐれバ問府の人民中今尚ゐは在留する者い僅に二千人計ゐり斯ゐる次第にて府民は糧食を得ゐに便なく卵子麺麭すらゐれゐらざる程ゐり此嚴軍の報知を得ゐや否やサイゴンより佛兵二小隊東京ゐ向て出發したりしが間ゐは其他の援軍も續と出發する筈ゐり然るゐ海内府ゐては兵卒も少く援軍の來着を望むと大旱の雲霓も曾ゐらず今佛軍が充分安南を操守するゐい二万の兵を要すべしといへり又横濱の佛字新聞エコー、デュ、デヤポンゐ曰く支那人、黒旗兵、及ひチュデュックの送道しゐる兵卒い海内の壁上ゐ總督リヴヰールゐ殺害い汝と戰地ゐ相見て臨肉の如くゐ汝を寸斷せんと記したる貼紙を出しゐれはリヴヰール氏い其暴慢を憤り打て之を誓めんとし五月十九日の拂曉大砲を率て城を發し午後六時を以て歸城せんと軍議一決ゐりしが黒旗兵い早くも此軍議を探知ゐ十九日代黄夜を以て埋伏兵を城市の近傍ゐ設け今ゐ遅しと待受たり、神ゐらゐ身のリヴヰール氏い夫れとも知らず十九日朝五時頃城兵ゐ出軍の命を下し眞先ゐ軍艦ゐ乗り城ゐ出發ゐ四門の大砲ゐ進ゐ自ら馬車ゐ乗して海軍歩兵一分隊、上陸し居る水兵の分隊及歩兵十二分隊等を其後に從へ其勢ゐ百餘人ゐて午前三時半より進軍し城外の急坂ゐ架しゐるバルニー橋を過きんとせしが橋幅狹くして大砲を進する能ハず因て一門づゝを打渡し先鋒隊ゐ彼岸ゐ達しゐる時一發後ゐ道側の森中より伏兵發ゐゐ發して大砲を奪ゐゐる海兵の過半を打倒し之れと同時ゐ砲聲四方ゐ轟ゐ支那の伏兵はレンコントン銃を携帯し且つ獣人ゐ指揮ゐれゐるゐらんと思はれ其襲擊甚だ急ゐれ共我が水兵は勢ゐく敵ひ大砲を奪て去ゐゐ是時軍艦ビッシエール、ジュビル號の尉官及見習士官ムーリン氏は既ゐ危く見へたれバ總督リヴヰール氏とイデ此二人を救ハんと乗りゐる馬車を飛下りたるゐ二人と共ゐ射殺ゐれゐゐ併ゐ大砲ハ遂ゐ支那兵の手ゐ落ちざりし、此日の戰ゐ死しゐる佛人ハベルト、ド、ヴヰラール分隊の隊長一名歩兵佐官一名歩兵尉官一名ビクトリース號の水夫十二名サンチュ、ヴヰラール號の尉官ハ腹部を射られシエルブライス他ヴヰラール號の尉官及びプリビエール號の副監督官は傷を被り測量士ガルニエール氏も負傷しビクトリース號ハ水夫十四名ヴヰラール號の水夫八名共に負傷したり佛兵敗を取り總督死亡したるゐ報海内府ゐ達するや城中の騒擾一方ゐらず軍艦ヴチルタ號をサイゴンへ遣ハし危報を告ゐ以て佛政府へ其因襲を報しゐりこゐ戰やリヴヰール總督以下統を率て打死ゐれバ佛軍ゐ取りゐて質ゐ小敗ゐらざれとも兵卒ハ不利ハ鋼り此ゐ是ゐゐ支那兵若ゐ總督の首を提げて益々氣を示すゐとき人心ゐ影響する所少ゐからず、拉石の敗軍後ゐ支那兵安南ゐ在留する佛蘭教徒を居らんとする抔の風説ゐれば水師提督メエール氏は海内ゐ來りて其兵を都督と同地ゐ在りたるモーレル、ビエーリエー氏と共ゐ專ら防禦ゐ從事し鎮りゐ本國の來援を待ち居り又今度旗殘したるリヴヰール氏は最も其職に稱ひ文思ゐりて著述の才ゐ富み實ゐ惜しべき人物ゐりし

又五月二十七日龍動發電報ゐ云く安南ハノイに佛兵ハ圍を衝況ゐれとも清兵れゐめゐ遅ひ展ゐれゐれを能城して頻りに來援を求めたり○佛政府へ東京の佛軍總督に向て天津より來る清兵若し安南ゐ進ハゐれんとせバ之を邀へて進撃すべきとの命令を送りゐり

抑モ東京ノ黒旗兵ナル者及ビ其聯合ノ兵ハ今回南方ニ進發シタル李鴻章ノ引率スル兵ニモアラズ又雲貴両廣地方ノ支那官兵ニモアラザルハ勿論安南田直轄ノ軍兵ニモアラザルヲ以テ黒旗ノ挙動ハ毫モ清佛間ノ疑問ニ關係スル所ナシト強ヒテ排斥スレバスルモノハ、其實際ノ影響ハ支那兵自カラ佛兵ヲ屠殺シタルモノト格別ノ相違ナカルベシ況ヤ東京地方ニハ其性質ノ如何ヲ審カニセザレモ數百ノ支那兵ノ出没スルアリ者テ安南兵ヲ援ケテ佛兵ニ抗シタリトノコハ前日來ノ外報中ニ散見スル所ナルヲ思フニ佛國政府ハ此報ヲ得ルト等シク直チニ強大ナル援兵ヲ派遣シ一舉シテ黒旗ノ巣窟ヲ覆ヘシ東京地方ヲ席卷シテ支那ノ境界ニ及ボシ偶マ支那兵ノ其行路ヲ妨ゲントスル者アレバコレト錐ヲ交フルニ踏躪セザルベキヤ疑ナシ大勝戰後ノ報知ハ在本國ノ佛兵ヲシテ怒髪冠ヲ衝カシムヘキハ論ヲ俟タズ見兵士ニシテ不日東京ノ「サンコイ」河岸ニ上陸ノ上ハ其擊砲必ズ尋常ナラザルベシ戰地ハ北京ヲ距ル二十餘英里ナリ電信鉄道ノ便アルニアラザルヲ以テ北京ノ朝廷ニテ清佛ノ全權等ガ談判應對ハ東京ノ戰事ヲ左右スルニ頗ル不充分ナルヿモアルナラン我輩ハ後報ヲ俟テ又論スル所アルベシ

本件ニ關シ海外電報の來ると同時ゐ香港及びサイゴン發の通報ゐてその狀況を詳ゐし取敢へずゐれを本日の紙上ゐ登載ゐしゐるが斯く電報の遲延したる次第は海内府の報知ハ始めゐサイゴンより印度と錫で歐洲ゐ通したるものゐ再び五月二十七日を以て倫敦を發しルータアの電線にて香港ゐ通し夫より船便ゐて横濱に着しゐる其間ゐ香港サイゴンの新聞紙も到達ゐたる故電報の遲刻したる姿とハゐりゐるゐり着官宜しく前後の日附等を參照して其情勢を詳ゐすべし

雜報

○興農競馬　前號ゐ記載せし如く一昨日ハ三田育種場ゐ於て興農競馬會社春期第七回大競馬ゐ付聖上ゐハ正午十二時三十分仮皇居御出門同一時二十分全場へ着御此時陸軍樂隊ハ（カルテ）の樂を奏し會場の中央ゐては煙火を揚げゐ若干の祝ゐ祀ゐ奉り兼て設ゐる玉座ゐ着せ給ひゐ是ゐ先見物ハ一設けの綾幟ハ勿論馬場ゐ外ゐ群集する者少らず長短りゐ鳴鐘ゐ報ゐより順次ゐ競走の馬を牽出す（第一距離四分ノ三、三頭立ゐて第一勝を得しハ吉川勝江氏持馬ペトツ（宮内省賞金六拾圓）（第二着ハ川西文次郎氏持馬吹上（全賞金五拾圓）（第二距離一回四分ノ一、貳頭立ゐて湯淺信義氏の持馬紅梅の勝となり會社第一號賞典を受く（第三）距離一回、三頭立ゐて小西賢氏れ持馬瞬れ勝（會社式號賞）（第四。距離一回、三頭立ゐて川西氏の持馬カタフェルドの勝皇族賞典金四拾圓）（第五。距離一回、二頭立ゐ三村新氏れ持馬七の戸勝（會社第三號賞）（第六。距離四分の三ゐて弓取（宇野美政氏持馬）初音、奈良、紅梅の四頭ゐて紅梅ハ初少しく後れ居たれとも漸く二頭と乗越へ最先ゐる弓取ゐ間近くゐりしも遂ゐ敢程を後れ弓取ゐ勝となり第二着ハ紅梅ゐて（會社第一號賞）第七。距離一回、木崎野カタフェルトハ少し出後れとゐり他の二頭ハ稍々前後ゐりしも四分ノ三を回りし比は正しく相並びて互ゐ先を爭ひ勝負如何ゐと氣を揉みたりしが遂ゐ五ノ戸は二ヵ尾三尾先ゐゐり勝を得たり（農務局賞典）以上二番は今日勝負中ゐて先面白かりし（第八）距離一回三頭立川西氏れ持馬吹上の勝となり（會社第二號賞）先ゐ御好競馬ゐて第一發電（藤波氏持弓取、紅梅、立山（德原氏持）の四頭にて何れも非れ敗足ゐるゐ八十秒間ゐて一回し飛電の勝となる第二號賞（藤崎氏持）ペトツの貳頭距離一回七十八秒ゐて競會の勝となり右二番の勝利者へハ宮内省ゐ紅白縮緬各一匹宛を両人に賜はる又競馬の間合ゐ借馬渡賞の別當其由馬とゐしより就中奇觀ゐるは薄暮の秋を告ゐ丈八一馬ゐ競